

令和 3 年度第 9 回定例会

八王子市教育委員会議事録（公開）

日	時	令和 3 年 9 月 1 日（水）	午前 9 時 3 0 分
場	所	八王子市役所 議会棟 4 階	第 3 ・ 4 委員会室

第 9 回定例会議事日程

- 1 日 時 令和 3 年 9 月 1 日 (水) 午前 9 時 3 0 分
 - 2 場 所 八王子市役所 議会棟 4 階 第 3 ・ 4 委員会室
 - 3 会議に付すべき事件
第 1 第 3 7 号議案 国指定史跡八王子城跡保存用地の取得に関する議案の
調製依頼について
 - 4 報告事項
 - ・学校給食における「姉妹都市支援献立」の実施について (学校給食課)
 - ・令和 3 年度 (2 0 2 1 年度) 夏季休業中における部活動の関東・全国大会出場
結果について (学務課)
 - ・八王子市こども科学館の一部利用再開について (こども科学館)
-

出席者

教 育 長

安 間 英 潮

教育長職務代理者

笠 原 麻 里

委 員

柴 田 彩千子

委 員

伊 東 哲

委 員

川 島 弘 嗣

教育委員会事務局出席者

学 校 教 育 部 長

小 柳 悟

学校教育部指導担当部長

西 山 豪 一

学校施設整備担当部長

八 木 忠 史

教 育 総 務 課 長

渡 邊 聡

地 域 教 育 推 進 課 長

高 橋 健 司

学 校 施 設 課 長

松 土 和 広

学 校 給 食 課 長

田 倉 洋 一

学 務 課 長

山 田 光

教 育 指 導 課 長

大日向 由紀子

特別支援・情報教育担当課長

鳥 越 克 彦

教 職 員 課 長

溝 部 和 祐

統 括 指 導 主 事

鴨 狩 淳 一

統 括 指 導 主 事

北 川 大 樹

生涯学習スポーツ部長兼図書館部長

音 村 昭 人

日 本 遺 産 推 進 担 当 課 長

平 塚 裕 之

生 涯 学 習 政 策 課 長

福 島 義 文

ス ポ ー ツ 振 興 課 長

岡 部 正 訓

ス ポ ー ツ 施 設 管 理 課 長

久保田 竜 司

学 習 支 援 課 長

新 堀 信 晃

文 化 財 課 長

菅 野 匡 彦

こ ど も 科 学 館 長

遠 藤 譲 一

中 央 図 書 館 長

高 野 芳 崇

生涯学習センター図書館長
南大沢図書館長
川口図書館長
指導課指導主事
学校給食課課長補佐兼主査
学務課主査
教育総務課主査
教育総務課主任
教育総務課主任
教育総務課会計年度任用職員

一杉昇子
堀内栄史
松井洋一
志村亮介
安齊祥江
中田努
長井優治
原口里紗
池上光
古瀬村温美

【午前 9 時 3 0 分開会】

- 安間教育長 大変お待たせをいたしました。本日の出席は 5 名でありますので、本日の委員会は有効に成立をいたしました。

これより令和 3 年度第 9 回定例会を開会いたします。

本市では、地球温暖化対策、省資源対策の一環として節電等に取り組んでおります。本定例会におきましても、照明の一部消灯や職員のクールビズを実施いたしておりますので、御理解いただきますよう、お願いいたします。

本日の議事録署名委員の指名をいたします。本日の議事録署名委員は、笠原麻里委員を指名いたします。よろしくお願いいたします。

それでは、議事を進行いたします。

-
- 安間教育長 日程第 1 第 3 7 号議案 国指定史跡八王子城跡保存用地の取得に関する議案の調製依頼についてを議題に供します。

本案について、文化財課から説明願います。

- 菅野文化財課長 おはようございます。

第 3 7 号議案 国指定史跡八王子城跡保存用地の取得に関する議案の調製依頼について説明いたします。

1 枚おめくりいただきまして、議案関連資料で御説明をさせていただきます。趣旨でございますが、「国指定史跡八王子城跡保存整備基本構想・基本計画」において、八王子城跡の価値を向上させていく、そういったことのために史跡区域内の土地の公有地化、その活用を事業計画に定めております。当該計画に基づきまして、今年度は 2 か所の取得を予定しております。

取得予定地でございますが、1 件はいわゆる根小屋地区と言われる宅地等が並ぶ地域になります。もう 1 件は八王子城跡の要害地区と言われます八王子の名の言われとなった八王子神社に続く道の途中でございます。合わせておよそ 3, 0 0 0 万円の取得等を予定しております。

本件につきましては免責要件で、市議会定例会に議案上程するが必要がありまして、今後の予定でございますが、1 1 月に第 4 回の定例会へ上程し、令和 4 年 1 月に土地の購入をする予定でございます。

説明は、以上です。

- 安間教育長 只今、文化財課からの説明は終わりました。

本案について、御質疑をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

- 安間教育長 では、私から。これらを取得することによって、八王子城跡の保存であるとか活用について、どんなプラスのメリットが生じてくるのか、想定するもので結構ですから、説明を補足してください。

- 菅野文化財課長 根小屋につきましては、かなり現在地元の方々と土地の利用の有効活用ということを言われております中で、根小屋地区の土地の公有地化を進めていきますけれども、例えば、城跡祭り等の際の1つのイベント活用用地としたり、それから地元の方々と現在は古代の食物ということで、そばづくりというようなものを実際にやったりして、そういった地域の中にある施設です。

もう1件は、先ほども言いましたが、八王子市の名の言われと言われる八王子神社に続く参道、これはお参りの道でもあり、いわゆる山道で登山道でもあり、それから史跡として見学する道になりますけれども、要害地区の途中でございまして、いわゆる曲輪群がたくさんあるというところで、ここの保存整備をするということによって、どうしても人が入ると、どんどん壊れていく部分がありますので、本市の公有地化を図り、今後も良好な史跡環境を維持していく、そういった目的でございいます。

- 安間教育長 ありがとうございます。御質疑はよろしゅうございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

- 安間教育長 それでは、本案に関する御意見をいただきたいと思います。

いかがでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

- 安間教育長 それでは、お諮りをいたします。

只今、議題となっております第37号議案については、提案のとおり決定するということに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

- 安間教育長 御異議ないものと認めます。

よって、第３７号議案については、そのように決定することにいたしました。

- 安間教育長 それでは、続いて報告事項となります。

学校給食課から報告願います。

- 田倉学校給食課長 それでは、学校給食における「姉妹都市支援献立」の実施について、詳細について安齊課長補佐から御説明をいたします。
- 安齊学校給食課課長補佐兼主査 それでは御説明いたします。

新型コロナウイルス感染症の拡大による影響が長引く中、昨年１月から２月にかけて実施した和牛給食に引き続き、資料の３の表にあるとおり、本市の給食では苫小牧市、日光市、小田原市、寄居町との姉妹都市のことを子どもたちが知る良い機会と捉え、さまざまな食材を用いた姉妹都市献立を実施しておりました。今回のホッキ貝カレーは、国の国産農林水産物等販売促進緊急対策事業を利用して、保護者の負担なく９月に全小・中学校で実施するものです。

これまでの経緯について御説明いたします。本市とも関係の深い地域と連携し、生産者の思いを伝えることが食育の観点から重要と考え、姉妹都市である苫小牧市の北雪牛を提供した際、市の農林水産課の方から名産品であるホッキ貝の話を聞きました。漁獲量が減ってしまっているホッキ貝を未来につなげるため、守りながら捕るという特別な取組をしている漁師の方々の思いに触れて、八王子の給食でも応援できないかと考えたことがきっかけです。今年度に入り、コロナ対策として学校給食で生産者を支援できる国の補助金があることを知りました。販路が減少しているホッキ貝を何とか支援するため、八王子市で日頃お世話になっている魚商組合さんに相談したところ、事業実施者を担っていただくことを快諾いただき、実現した事業でございます。

資料２（２）にございます提供日と提供量についてですが、令和３年９月２２日から２９日に全小・中学校で各１回ずつ提供いたします。アレルギー対応として、日頃から貝類のアレルギー対応をしているお子さんは、ホッキ貝を除いた除去食を提供し、事前に保護者宛のお便りを出して、安全にも配慮いたしました。提供量については１人当たり３０グラムを目安に提供します。普段とは違ったシーフード風味の特別なカレーになります。昨年に引き続き、このような機会を設けることがで

きたのは、苫小牧市と八王子市の歴史的なつながりが生んだものだと考えております。この機会を通じて、子どもたちには裏面にあるような食育教材等を用い、遠く北海道の海の恵みがどのように収穫され、守られているのかを伝えます。給食を通じて食べること、食べられることの大切さを学ぶ機会となることを期待しております。

コロナ禍の中、さまざまなことを我慢している子どもたちに思い出に残る給食を届けるとともに、姉妹都市に対する興味が深まるよう取り組んでまいります。

説明は以上です。

○安間教育長 只今、学校給食課からの報告は終わりました。

本件について御質疑、ございませんか。

○伊東委員 御説明ありがとうございました。

今の御説明の中で、苫小牧市と八王子市の歴史的なつながりという御説明があったのですが、どういうつながりなのか今後のために教えてください。

○安齊学校給食課課長補佐兼主査 苫小牧市と八王子市のつながりは220年前からと言われていまして、1800年に八王子千人同心の一部が蝦夷地に住み着いた時からで、今でも毎年8月20日には慰霊祭が行われていて、苫小牧市の皆様は、このつながりを大切にされているところです。

○安間教育長 他にございましょうか。

○柴田委員 1点お伺いしたいのですが、裏面の資料ですけれども、こちら9月の食育メモとあって、ちょうど日付が抜けていますが、こちらは各学校の各学級に配付されるのでしょうか。

○安齊学校給食課課長補佐兼主査 大変失礼いたしました。そのとおりでございます。

クラスで給食委員が読み上げたり、また1・2年生などの低学年には担任の先生がかみ砕いて説明をしていただいたりして、給食が提供される日に活用する食育教材になっております。

また、この他にも学校の掲示板に、今までの姉妹都市苫小牧市とのつながりや、漁師さんたちがどのように守りながら捕っているのかという掲示物も掲げて、子どもたちに伝える取組を行う予定でございます。

○安間教育長 他にございましょうか。

よろしゅうございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

- 安間教育長 それでは、報告として承らせていただきますが、今後ともぜひ、どんどん第4弾、5弾と、続けていってほしいと思いますので、所管課は頑張ってください。
-

- 安間教育長 それでは、続いて学務課から報告をお願いします。

- 山田学務課長 それでは令和3年度、夏季休業中における部活動の関東・全国大会出場結果について御報告いたします。

詳細につきましては、担当の中田主査より御報告いたします。

- 中田学務課主査 お配りした資料に沿って御説明いたします。定例会報告事項資料を御覧ください。

今回御報告いたしますのは、夏季休業中に行われました部活動の関東大会、全国大会の出場結果を報告するものです。昨年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の対応で、夏季に開催される関東大会、全国大会は中止となっておりましたが、今年度は新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、開催されております。

1枚目、2の内容、出場状況ですが、関東大会に出場したのは個人14名、5競技です。競技の内訳は水泳、体操、卓球、バドミントン、陸上競技となっております。団体は3チーム、二競技でバスケットボールとバドミントンになります。

また、全国大会に出場したのは個人で10名、4競技になります。競技については少林寺拳法、水泳、バドミントン、陸上競技となっております。団体は2チーム出場しておりまして、競技は1競技でございます。バスケットボールになります。

詳しい詳細につきましては、2枚目以降、別紙を御覧ください。表の左から学校名、部活動名、全国大会、関東大会の区分となっております。

また右のほうですが、その部活動に外部指導員が配置されているか、主たる活動が校外であるかどうかを記してあります。競技によっては関東大会の成績が優秀であっても、必ずしも全国大会に出場できない場合がございます。これは基となっている東京都の大会の成績によって、その時点で関東大会への出場者、全国大会の出場者という形、分かれて出場する競技や、その時点で標準タイムを超えていないと

上位大会には出場できない競技があるためです。

表の番号で最初の１番から９番の加住中学校の少林寺拳法部ですが、全国大会の選考大会となっている第１６回東京都中学校少林寺拳法大会に出場し、優秀な成績をおさめたことで、全国大会への出場を決めました。しかし、大会当日は西日本が大雨であったため、開催地であった福岡が悪天候により大会が中止となったため、参加できなかったという報告を受けております。

この一覧のように多くの本市の生徒が関東大会、全国大会に出場しています。競技によっては顧問の教諭と、あと外部指導員さんの御指導により、学校内の活動で上位大会への出場につながったようなケースや、また水泳など校外で活動する方法によって上位大会に出場したケースもございます。活動の方法はさまざまになるのですが、努力が実を結び、関東大会、全国大会に出場できたことは大変すばらしい結果だったと思います。教育委員会といたしましては、大会出場に関わる交通費、宿泊費、大会参加費などの費用を生徒派遣費という形で補助しております。今後も指導員の配置や生徒派遣費の補助といったことを通じて、部活動の充実を図ってまいります。

最後になりますが、表の最後のところになるのですが、夏季休業中ではないのですが、１０月の大会で既に全国に出ることを決めている部活動がございましたので掲載しております。

報告は以上でございます。

○安間教育長　　只今、学務課からの報告は終わりました。

本件について、御質疑ございませんか。

○笠原委員　　すばらしい活躍の御報告をありがとうございます。

このコロナ禍で大変ですけれども、本当に頼もしい限りですし、彼らにこういう機会がたくさん与えられていくことを望みます。

その上で、今回コロナウイルスだけではなく、悪天候など色々な事情で、大会ができないこともあったかと思いますが、今回の御報告いただいた競技や出場者の中で、それこそ学校でコロナウイルスが流行してしまったから参加できなかった、または、個人的にコロナウイルスのことで出場を諦めざるを得なかったなどということとはなかったでしょうか。

- 中田学務課主査 部活動、今回の大会も含めて、そういったコロナウイルスが心配で参加しなかったという報告は受けておりません。
- 笠原委員 心配でというよりはかかってしまったということで、感染してしまうと大会に出られないですね、多分規程でそうなっているのではないかと思いますので、お名前を述べていただく必要は全くないですが、そういう事態にはならず済んだのか、何とか頑張ってお出いただいたのか、その辺を伺えますか。
- 山田学務課長 結果的には、そういったコロナウイルスに感染して出場しなかったという報告は受けていません。
- 笠原委員 何を伺いたかったかというと、別にかかってはいけないという話ではなくて、これだけ流行っているんで、かかってしまうので、そういう時に子どもたち自身はとてものがっかりするでしょうし、高校野球もありましたよね。そういうことが本当にあり得る事態になっているので、あった場合のフォローといたしますか、子どもたちに君たちが悪いわけではないということも含めて、大会に出場する力があって、でも出られなかった子どもたちというのは当然出てくると思うのです、これらも。そういうことがあった時に、子どもたちへのフォローや先生方はがっかりはするでしょうけれども、それは、それで大切なことであろうから、対策として励ましを続けていただければと思った次第です。
- 安間教育長 他にございますか。
- 伊東委員 御説明ありがとうございました。
部活動ということなので、例えば、吹奏楽部などというのは、今年は中止になったのでしょうか。
- 山田学務課長 特に中止ということにはならず、実施したということです。
- 伊東委員 実施はしているんですね。分かりました。
- 柴田委員 御説明ありがとうございました。この中学生の活躍、大変うれしく報告をいただきました。

子どもたちの指導体制について伺いたいのですけれども、別紙の右側の欄なのですが、部活動指導員が教員の公務として教員が担っているということだと思いますが、部活動の指導の補助員と、それから外部指導員の2種類あるのですけれども、これはどのように違うのでしょうか、教えていただければと思います。

○山田学務課長　　まず、部活動指導補助員ですが、こちらは有償ボランティアという形で、学校が競技に長けているような方を選びまして、お願いしている状況になっています。

また、部活動指導員につきましては、こちらは会計年度任用職員ということでアシスタント職を市で任用しまして、指導を行っていただいています。

部活動指導補助員の方につきましては、部活動の顧問の方を補佐するような形で指導をしているという形になっております。部活動指導員につきましては、教員の負担軽減を目的に導入しているものとなっております。

○柴田委員　　部活動の顧問の方を補佐するという方は、ボランティアで地域の方が担っていらっしゃるのですか。

○山田学務課長　　地域であったり、必ずしも地域ではなく他から来ているというような形になっております。有償ボランティアであっても、時間当たり僅かな金額ではあるのですが、支給して行っているような形になります。

○柴田委員　　分かりました。

○安間教育長　　その辺の指導体制については教育指導課で文言を統一されていますか。

課によって言葉遣いが違うのでは分からないので、部活動指導員というのは顧問の代わりに指導してくれる人ですね。部活動指導補助員というのは顧問はいるけれども、競技の技術や、そういったものだけを教えてくれる部分的な人。そのような違いがあるのですよね。なるべく、ここは分かるようにしてください。

他に御質疑ございませんか。

よろしゅうございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○安間教育長　　活躍していただいた子どもたちにも、本当に心から拍手を送りたいと思います。重ねて、このコロナ禍の中でありながら、子どもたちのこういう貴重な機会をしっかりと運営していただいた大会の関係者、主催者の方々、また子どもたちがこの大会に参加できるように一生懸命力を尽くしていただいた学校の先生方から感謝を申し上げて、我々大人の責任として、このような機会を危険だからやめるといふ、単純な発想で機会を奪っていくのではなくて、このように子どもたちの活躍の機会を、一生一度の機会を確保しておいてあげる。私は大変教育的に意義の

あることだろうと思っております。部活動でありますから、学校の教育課程の中で
の全体で行うというようなものではありませんけれども、子どもたちの参加の希望
があれば、八王子市教育委員会は全力で子どもたちの希望が叶うように支援をして
いくと。今後ともそういうような姿勢は大原則として、常に行っていきたい。

先般行われましたパラリンピックの観戦についても、参加希望制という形で、1
00名に満たない子どもたちでしたけれども、教育委員会としては全力で支援をい
たしました。この後も部活動など、そういった活動があると思いますけれども、本
市教育委員会の基本姿勢としては、子どもたちの学ぶ機会、また貴重な一生の機会、
そういったものを「どうしたらできるのか」、そのような視点から援助をしていくと
いう方針で今後ともやっていきたいと考えております。

以上、関東・全国大会出場結果についての報告、承らせていただきたいと思います。
す。

○安間教育長 続いて、こども科学館から報告願います。

○遠藤こども科学館長 それでは、八王子市こども科学館の一部利用再開についてを御
報告させていただきます。

現在、こども科学館では手で触れる展示物が多く、新型コロナウイルス感染症拡
大防止の観点から、展示物の公開を休止しております。夏休みに入りまして、展示
物再開についての問い合わせが多く寄せられたことから、業種別ガイドラインや東京
都における緊急事態措置等に基づきまして検討した結果、観覧での利用、または手
で触れることなく利用可能な屋内展示物及び市内事業者に寄付をいただきました2
時間後にはウイルスが不活化する抗菌コートを施工していただいたことにより、屋
外に展示してある地下鉄流星号について感染リスクが低いと判断して、利用の再開
をいたします。

利用対象者は屋内展示物につきましてはプラネタリウム観覧者、工作教室等のイ
ベント参加者、屋外展示の地下鉄流星号につきましては、平日午前利用する団体
のみといたします。今回利用を再開する展示物は3、利用再開する展示物のとおり
でございます。

また入館料につきましては、プラネタリウム観覧及び工作教室等のイベント参加

前後に利用していただくことから、短時間であり、かつ利用展示物が少ないことから、引き続き無料といたします。

再開時期につきましては、緊急事態宣言解除後の9月15日を予定していますけれども、宣言解除が延長されるなど、感染状況が終息せず、引き続き感染リスクが高い場合には変更する場合がございます。

また周知につきましては、ホームページ、全児童に配付しております「催し物ご案内」等で周知をしていきたいと思っております。

説明は以上です。

○安間教育長 只今、こども科学館からの報告は終わりました。

本件について御質疑ございませんか。いかがでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○安間教育長 私から。希望があったということなので、手で触れることなく利用可能な室内展示物に関してという形になったのですけれども、市民の本当の希望というのは、シミュレーションや、動くアトラクションが御希望なのですよね。やむを得ないことでもあるのでしょうかけれども、本市だけではなくて、例えば、都内のもう少し大きな施設などで、操作性のあるような物というのは緊急事態宣言中はどこも、子どもたちは体験できないようになってしまっているのですか。

○遠藤こども科学館長 近隣の科学館にも問い合わせをさせていただいたのですけれども、基本的には手で触る物については原則ご遠慮いただいていると。

ただ、巡回する職員が2人必ず回っているということですので、それである程度アルコール消毒できる物については、許可している物もあるということは伺っています。

○安間教育長 人気がある物で、入れ替わり立ち替わり並んでしまうものだと、とてもそこまでの対応はできないので、致し方ないのでしょう。

○遠藤こども科学館長 実は入館料等を取っている関係で、今説明いたしました31の展示物のうち5つしか使えないのに入館料を取るのかという、課題等もあります。5つしか使えないから、では無料にする、そのラインはいくつまでだったら無料で、いくつまでだったら有料にするのかという問題もあります。今の状況でできることはやっていきたいと思っています。

○安間教育長 よろしくをお願いします。

よろしゅうございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○安間教育長 1点要望です。先ほどのホッキ貝のこともありましたけれども、この2年間学校の小・中学生はかなり制約を受けて、色々なやりたいことができなかったりしているはずです。今も一生懸命考えてくれているように、あらゆる機会、あらゆる選択肢、それを用意して、色々な機会をこちらで子どもたちに用意してあげるという、そういう努力をぜひ2学期になったところで、各課のほうで考えていただいて、重点的に進めていきたいなと思いますので、事務局の皆様方、ぜひよろしくお願いしたいと思います。

それでは本件、報告として承らせていただきたいと思います。

以上で定例会の審議は終わりますが、委員の方から何かございましょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○安間教育長 ないようであります。

○安間教育長 さて、笠原委員が9月30日をもって任期満了となりますので、定例会への出席は、本日が最後ということになります。皆様の前でお話をいただく機会も今回がラストになろうかと思しますので、この場をお借りいたしまして、笠原委員から退任の御挨拶をいただきたいと思います。

○笠原委員 4年間、この任につかせていただきました。本当に大変お世話になりました。

私は医師ですので、教育行政というものには本当に何も知らずにこの場に伺っていたわけなのですけれども、教育長をはじめ八王子市の教育に携わる姿勢というものを本当に毎回、毎回見せていただいて、非常に大きく考えるとすごく柔軟に、子どもたち、あるいは社会へ市民へ発信されている。そして、それを動かしている委員会だと実感を募らせております。

当初は4年前ですので、まだコロナ禍でもなかったですし、非常にグローバルな活動がすごくたくさんあり非常にびっくりしていました。台湾のほうに生徒さんたちが毎年、毎年派遣されていることや、それから苦小牧の話もありますけれども、

本当に八王子の中にとどまらないで、広く活動の場を広げておられるということにとてもしごくいいなと思いましたし、それから実際、本当に知らなくて恥ずかしかったのですけれども、八王子市にはたくさんの公立学校があるのだということ。大学がたくさんあることは何となく、建物が大きいので分かっていたのですけれども、たくさんの子どもたち、そして私が就任させていただいた時は108校あったわけなのですが、これだけの数の学校を教育委員会がこうやって見渡しながら応援していくのだということが本当にびっくりしました。それに加えて、その上でとても責任も感じました。

本当に最初の1年間ぐらいは、割と自由に動いていた気持ちがあったので、学校訪問や、東京都の施設を見せていただいたりして、非常に私自身が勉強をさせていただきました。子どもたちを支えるということの大事さというのを皆が、大人たちが力を合わせてやっているということを感じていました。

その中で私は、やはり大きく2つのことを感じ続けて、そして皆様にお伝えしておけたらと思うことが2つあります。

1つ目は、これは皆様にとって当たり前のことですが、知ることの大事さ、無知というのは非常に悲惨な結果を生むということを社会は知っていると思います。それは、例えば、私が携わっている仕事の中に児童虐待という問題があるのですけれども、子どもへの虐待のリスクは貧困ですとか家庭の環境ですとかいろいろあるのですけれども、そのうちの第一に挙がってくるのが育児への無知というのがあるのです。養育ということを知らないで大人になってしまう大人たちが実は増えています。恐らく昔は、子どもたちがいっぱい周りにいて、誰かが誰かを育てている環境の中で、見よう見まねで幾らでも人は育っていた時代が長くあるのだと思うのです。ところが今は核家族で、マンションの一室で自分と、何なら母子家庭、父子家庭で、大人が自分1人というお家すらある時代の中で、子育てを見たことがない、聞いたこともない、自分が育てられたことしか知らない。そうすると、虐待の連鎖と申しますが、虐待を受けて育った大人たちは虐待をして子どもを育てていくということが、これは世界的に分かっています。育児の無知ということが非常に憂いられているのですけれども、もう育児は教える時代になったのです。

つまり、ここの教育委員会というところは子どもたちに教えるのだけれども、大

人にも色々教える力を持っている場であり、やはり、これは育児に限りません。例えば、今回のコロナ対策も、最初は知らないから皆怖がっていて、今よりはるかに感染人数が少なかったにもかかわらず、みんなものすごく神経質になっていたと思うのですけれども、知らないと怖いのは当たり前です。だけれども、時間の経過と共に大分分かってきてからは、こうやって関東大会にも行けてしまうというぐらいのことが起こる。これは素晴らしいことだと思います。

つまり私たちは、これは英知というのは、そういうものだと思いますが、知ることがものすごく大切になっていく。それが自分たちを守ることにもなっていくわけです。そのことが発信する第一義的な場所だというのが教育委員会だと思いますので、本当に大きな力だと思っています。

それから2つ目ですが、恐らく教育の現場では、ともすると、良くあろうとするがゆえに、良くないものに対して良くなりなさいと言ってしまう。ここが非常にジレンマなのです。良くあったほうが良いのですが、でも良くあれない場合がある。例えば、今回のパラリンピックなどを見ても、手も足もないというような状況の中で、生きていくということを選択した時に、さてどうやってという時に、それは何とかしないと生きていけないので、何とかするのですが、何とかするということは、同じように全く元に戻るのかというと、そうではないわけです。

子どもの対応に、例えば、子どもたちの中にも色々な能力を持った子どもがいて千差万別であるし、それから、これまで受けてきた教育や環境の違いによって、大人にも色々な差があります。その差を私たちは埋めようとするのではなくて、その差における違いを、難しいのだったら、何とかその人が全力を発揮できるような方法を見つけるということが多分、大事になってくる。特にそういう時代になってくるのではないかと思います。そこにはもちろん、本当に今回のパラリンピック見ても義足や車椅子、あのような技術もすごいのですけれども、今回のコロナ禍で今、教育長がくしくもおっしゃっていた触ってはいけないのとおっしゃっていましたけれども、触らなくても触った感触のできる研究していらっしゃる先生方がいるのです。AIのような、バーチャルリアリティのような世界、VRというのですか、そのような科学者もいて、だから、そういうことができてくる時代になってくるので、ですから、私たちが五感を感じてやってきたこと、五体満足と思ってやってき

たことが、もしうまくいかなかった時、知能もそうです、知的な能力も、もしどうしても補完できない時に、自分の力では何ともできない時に、何とかそれを補完するなり、その人にとってより良い形になるようにしていくというメッセージを送っていくのが、メッセージを送るだけではないですね、作り上げていくのが多分、私たち大人がすべきことだろうと思います。

また、行政の中でそれを考えていただけたら本当に素晴らしいことになっていくだろうと思っています。まだまだ未知のことが本当に多いので、知らなければいけないのですけれども、知ったら、きちんとそれを使えるようにしていくというのが教育の力だと本当に思います。一人一人の子どもを見ていくと、そうやってたくましく育てていっていることは間違いないと思っているので、知った力をきちんと使えるように、そして、その使う場を我々が作り上げていくということがとても大事なことなのだなと思いながら、この仕事をさせていただきました。

今回、ここで任を解いていただくことになったのですが、私自身は、この1年半ぐらいコロナウイルスのことがあり、それを理由にしてはいけないと思いながらも、すごく身動きが小さくなってしまって、自分がどうしても病院の中で患者さんに接するために出歩けないのです。すごく自分の中では行動が狭まってしまったので、本当は委員としてやらなければならない仕事がたくさんあったのですけれども、させていただく時間と状況を作ることができなくて、十分ではなかったと思いますが、大変勉強をさせていただき、かつ皆様と仕事をさせていただいたことにとっても充実感を感じていました。

本当に4年間ありがとうございました。

○安間教育長 ありがとうございました。

それでは、委員の皆様方から笠原委員に贈る言葉をいただきたいと思います。

○柴田委員 笠原先生、4年間大変お世話になりました、ありがとうございました。

笠原先生、いつもにこにこされていて、お話しされると本当に心がほんわかするというようにいつも感じております。そのようなほんわかとした雰囲気、いつもお仕事でお子さん方に接していらっしゃるのだと察しております。

笠原先生からは、教育というものは、私、学生時代に人を良くすることだ、自分を律するほうの自律に向けて子どもを育てていくことだと教わって、そういうもの

だとずっと信じていたのですけれども、その方法も今、個別最適化という言葉が教育界でよく使われますけれども、本当に多様性に富んだ方法で、視野を広く持って施していかなければならないということを身をもって、さまざまな場面で教えていただいたように思います。笠原先生は、多くのお子さんと接してきたという、そういうところから得られた知見を私にも少し分けていただき、学ばせていただいたことに心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

これからも同じ八王子市にいらっしゃいますので、色々な場面でお会いできるかと思しますので、これからも笠原先生の御活躍、そして、また御教授をいただければと思います。

今までありがとうございました。

○伊東委員 笠原先生 4 年間どうも大変お疲れさまでした。

また、御指導、御助言をいただきまして、本当に私も勉強させていただきました。ありがとうございました。

先生と教育委員会の中で意見交換をしていると、行政にいた頃、教育と医学という月刊誌があるのですけれども、それを回覧で読んでいた時のことをすごく思い出します。自分の考えと全く違うアプローチで、目の前の事象に対応されているという姿をまざまざと感じたところでもあります。

これからも教育と医療の連携というのは非常に重要だと思います。教育は、ともすると日常的に集団への支援というのが得意分野なのですけれども、先生の御助言、御意見を伺っていると、治療が必要な子への支援というものをしっかりと的確にアセスメントをされて、そのアセスメントに基づく治療など、そういった観点から問題を分析され、対応されていると。そういう御意見をたくさん伺うことができまして、改めて医療と教育、これがしっかりとスクラムを組んで、お互いの得意分野を発揮しながら、子どもたちを見守ることの大切さというのを痛感したところでもあります。

また、これからインクルーシブ教育時代ということで、先生が色々な合理的配慮に関わるアセスメントのお話をさせていただきまして、大変先生の知見を受けまして、私も活用させていただきました。これから先生は教育委員会の場にはいらっしゃらないのですけれども、先生から教えていただきましたことを引き継ぎまして、

しっかりと先生の残されたレガシーといいますか、そういったものを受け継いでいければと思います。教育委員会の外から、我々を御指導していただけるとありがたいと思います。

本当にありがとうございました。

お疲れさまでございました。

○川島委員 本当に4年間お疲れさまでした。ありがとうございました。

私は2年間しか御一緒にやらせていただけなかったのですが、こういう定例会もそうですし、先ほどの2つのポイントのお話もそうですが、本当に広い知見から、また鋭いお話をいただいて、お話を聞くたびに、私自身ものすごい勉強になりました。本来であれば、また4年間一緒にという話だったと思うのですが、先ほど先生がおっしゃったようにコロナ禍ということで、なかなか状況が許さないという残念なことであります。

そうは言いましても、このコロナ禍だからこそ、先生の力を必要としているお子さんもたくさんいらっしゃると思いますので、これからは、また、そちらのほうでお力を発揮していただいて、またお元気で活躍されることをお祈りしたいと思います。

どうも4年間、ありがとうございました。

○安間教育長 最後に私からもお礼を、言わせていただきたいと思います。

笠原委員には後半の2年間、未曾有の国難であるコロナ禍の中、笠原先生自身が大変お忙しい医療従事者である、そういう中で本当に専門家目線で、委員としての職責を果たしていただきました。心から感謝を申し上げたいと思っております。今日のお話もどこかで、また校長などに紹介させていただきたいと思っておりますが、印象に残っているのはポスト・トラウマティック・グロースの話。PTSDというと、私はどうしてもネガティブな印象を持っていたのですが、先生のお話をきかせていただいて、私、本当に目からうろこが落ちて、早速校長会でお話しさせていただきました。

また、特に学校での子どもたちに関わる具体的な問題行動と、そのあたりの認識。先ほどのお話しでも、学校はどうしても良くあろうとする、なるほどな、鋭い視点だなと。私自身も、そういう目で見えてしまっているのですが、先生が目で見

ると問題行動というものの本質、子どもの側から見た視点、一番困っているのは子どもなのだろうと。そのような視点というのは先生と４年間お話しさせていただいた上で、私自身にも身についたのだろうと思っています。私の役割は、それをあらゆる機会を通じて校長先生方に伝えていくことなのだろうということを強く思った次第です。

また、学校心理スーパーバイザーとしても御尽力いただきまして、本当に御多忙の中、大変感謝しております。

今のような専門性とは違う話ですが、たまたま今日は給食のホッキ貝のことが出ましたので、笠原先生覚えていらっしゃるでしょうか、オリンピック・パラリンピック教育の一環で世界の料理の授業をやった時に、先生がアメリカ南部の家庭料理のガンボを提案していただいて、すぐにそれを給食で子どもたちに出して、子どもたちが大喜びしていたというのが非常に印象的で、そういう足跡も残されたのだということを中心に感謝をしたいと思います。

先生のお話というのは視点を子どもに置いた上での御発言で、今後も私たちは先生の理念を忘れないで、児童・生徒に真摯に寄り添う、そのような教育活動を全力で行っていかねばいけないと決意を新たにしたところでございます。これで終わりではなくて、本市の教育行政には引き続きお力を貸していただけるよう、心からお願い申し上げまして、私からの挨拶とさせていただきます。

どうもありがとうございました。

笠原委員は平成２９年１０月から教育委員として八王子市の教育の発展に御尽力いただきました。これまでの御貢献に対しまして、感謝の気持ちを込めまして、改めて全員で拍手を送りたいと思います。ありがとうございました。

〔拍手〕

○安間教育長　　以上で、本定例会の議事日程全て終了いたしました。

これもちまして、本定例会終了いたします。

ありがとうございました。

【午前１０時２１分閉会】